

令和3年度第2回理事会が開催される  
令和4年度活動計画  
中国における新潟産米プロモーション(新潟市北京事務所からの報告)  
第2回新潟SDGsアワード表彰式・記念講演

2022/6/1 第43号

## 令和3年度第2回理事会が開催される



理事会の様子

財団の令和4年度活動計画と収支予算を審議する理事会が4月11日に開催され、当日出席された役員(理事・監事)の賛成により承認されました。活動計画の概要については下記によりご報告いたします。

なお、収支予算についてはホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

<https://www.niigata-award.jp/contents/about/index.html>

## 令和4年度活動計画(令和4年5月1日～令和5年4月30日)

令和4年度は第7回食の新潟国際賞の表彰事業を開催し、国内外からの食と農の情報収集と新潟の発信に努めるとともに、この機会を活用して国内外の関係機関・団体・研究機関等とのネットワークを拡大し、併せて国際賞の広報活動を通じて財団と国際賞の知名度アップを図る。

創設理念に立ち返り、地域社会への貢献や地域経済発展へ寄与するとともに、会員・企業へ還元する事業活動に取り組む。

具体的には行政や会員・産業界・大学との連携による、食と農をテーマにした学生ビジョンコンテストを新規事業として開催し、若者への財団や食の新潟国際賞への認知度を高める。また、SDGsの普及と取り組みを推進する事業や、食品産業や農業をテーマにした講演会、セミナーを開催し食と農の情報の収集と発信を積極的に行う。

### 1. 理事会・評議員会・役員懇談会の開催

#### (1) 理事会開催

定時理事会

(令和4年6月24日、令和5年4月 於：新潟市)

#### (2) 評議員会開催

定時評議員会

(令和4年7月 於：新潟市)

#### (3) 役員懇談会の開催

評議員・理事・監事・顧問懇談会

(令和5年2月 於：新潟市)

### 第7回食の新潟国際賞選考委員名簿(敬称略)

構成	氏名	所属・職名
委員長	唐木 英明	(公財)食の安全・安心財団 前理事長 東京大学 名誉教授
委員	赤阪 清隆	(公財)フォーリン・プレスセンター 前理事長 元 国連事務次長、国連日本政府代表大使
委員	石井 勇人	共同通信社 取締役 前農業ジャーナリストの会 会長
委員	今野 正義	日本食糧新聞社 代表取締役会長CEO
委員	清水 誠	東京大学 名誉教授 東京農業大学 客員教授
委員	生源寺真一	福島大学 食農学類長 教授 東京大学 名誉教授
委員	西澤 直子	石川県立大学 学長 東京大学 名誉教授
委員	渡辺 聡	新潟県農業総合研究所 食品研究センター長
委員	伊藤 忠雄	新潟大学 名誉教授 新潟市農業活性化研究センター 名誉所長

# 令和4年度活動計画(令和4年5月1日～令和5年4月30日)

## 2. 第7回食の新潟国際賞の受賞者選考と表彰事業の開催

- (1) 第1次書類審査(3月～4月) 選考委員による書類選考
- (2) 選考委員会の開催(5月19日) 第7回国際賞の受賞候補者の選定及び理事会への答申
- (3) 受賞者決定(6月24日 於:新潟市) 理事会において受賞者の決定
- (4) 受賞者発表(7月) 記者会見の開催(受賞者・理事長・新潟市長・選考委員長同席による記者会見)
- (5) 表彰事業の開催(11月29日 於:新潟市) (表彰式・記念講演会・祝賀交流パーティー)

## 3. セミナー・講演会・交流会の開催(財団自主事業)

食の新潟国際賞親善大使や財団のネットワークを生かした講師招聘による講演会・セミナーの開催。

- (1) 会員定例オンラインセミナー(年4回)  
会員向けの財団のネットワークを生かした講師招聘による「食品」「農業」SDGsに関する最新情報や先端研究、トレンドをテーマとした定例会の開催。  
(令和4年度 4回程度開催 オンライン)
- (2) 食の新潟国際賞受賞者 特別講演(学生・研究者人材育成)  
講師:前野浩太郎氏(第5回食の新潟国際賞 21世紀希望賞受賞者)  
テーマ:「アフリカのサバクトビバッタとの闘いと研究」(仮題)  
開催日:令和4年秋(予定)、会場:新潟大学内、対象:県内大学生・研究者参加
- (3) 第7回食の新潟国際賞受賞者 記念講演  
講師:第7回食の新潟国際賞受賞者、開催日:令和4年 11月29日(火)
- (4) 新春講演会・交流会(令和5年2月)  
テーマ「食と農の世界の最新情報と新潟の可能性」(仮題)

## 4. 受託事業

○新潟「食と健康」フォーラム開催事業(食と花の世界フォーラム組織委員会事業受託)

新潟「食と健康フォーラム」開催に関わる企画・運営事業を受託する。

併せて会場内に県内企業の機能性食品の展示紹介コーナーを併設し県内食品企業の紹介を行う。

月日(曜)	行事	会場
11月23日(水) 13:30～16:00	「健康で長生きしましょう」 未病と健康寿命、機能性食品について(仮題)	新潟日報メディアシップ 日報ホール

## 5. 地域貢献事業の企画および参加協力

食に関する共同企画事業を行政・マスコミ・大学・研究機関・国際機関・経済団体とのタイアップにより計画し、講演会・国内外視察団・調査研究などの共同企画事業を実施する。

### (1) SDGs推進事業

地域創生プラットフォーム(新潟日報社内事務局)への参加と共同事業開催

- ①「SDGs啓発セミナー」(年間 5回～6回)
- ②「新潟SDGsアワード」(令和5年3月開催予定)  
「食の新潟国際賞財団 特別賞」の授与、アワード記念講演への協力
- ③シンポジウムの開催

## 6. 食料産業分野の人材育成と大学との連携促進事業

県内学生の食と農への関心高め、県内食料産業の将来を担う人材育成を図るための情報提供や交流事業を開催し、併せて財団や食の新潟国際賞への学生への周知拡大を図る。

### (1) 「にいがた食と農の未来」学生ビジョンコンテストの開催

主催 公益財団法人 食の新潟国際賞財団

運営体 「にいがた食と農の未来」学生ビジョンコンテスト実行委員会

内容 新潟県内の大学・大学院・専門学校・農業大学校等の学生・生徒から、新潟の食料産業と農業の未来ビジョンをテーマに、提言や意見発表をプレゼンテーション方式で実施するコンテスト。

# 令和4年度活動計画 (令和4年5月1日～令和5年4月30日)

- 主な事業 ① オリエンテーション (セミナー) 新潟県の食と農業についてのセミナー  
 ② 新潟県の食と農業についてのセミナー 「食の新潟国際賞の創設と佐野藤三郎氏」  
 ③ 食品企業・農業者への企業視察・オンライン交流  
 ④ コンテスト・決勝大会・表彰式 11月5日 (土) 開志専門職大学 紫竹山キャンパス  
 ⑤ 交流会

(2) 特別講演会開催 (学生対象) 前野浩太郎氏 (第5回 21世紀希望賞受賞者)

「アフリカのサバクトビバッタとの闘いと研究」 (仮題)

(3) 第7回食の新潟国際賞表彰式・記念講演会への出席

「にいがた食と農の未来」学生ビジョンコンテスト入賞者を招待し、国際賞への理解と世界的研究・活動への関心を高める。

## 7. 企画運営委員会活動

財団の運営安定化と積極的な事業活動を展開するために委員会を設置し、財団事業活動への支援・協力や理事会への提言および財団事務局へのサポートを行う。

(1) 委員

(会員企業・団体から7名から10名で構成)

(2) 委員会開催数 (年4回～5回程度)

(3) 委員名簿 (令和4年度)

区分	氏名	所属・職名
委員長	大坪 研一	新潟薬科大学 応用生命科学部 特任教授
委員	高橋 肇	亀田製菓(株) 執行役員 お米総合研究所所長
委員	浅野 和男	(株)ブルボン 常務取締役 執行役員
委員	高島 正樹	一正蒲鉾(株) 取締役 常務執行役員
委員	西海 理之	新潟大学 自然科学系 教授
委員	鶴間 尚	新潟日报社 総合プロデュース室 室長
委員	遠藤 二郎	亀田郷土地改良区 事務局長
委員	武本 俊彦	新潟食料農業大学 食料産業学部長 教授
委員	鈴木 伸作	(公財)食の新潟国際賞財団 常務理事
オブザーバー	高野 好弘	NSGグループ 役員室長

## 8. 佐野藤三郎氏顕彰事業

佐野藤三郎氏の功績を顕彰し広く伝える事業を行う

(1) 佐野藤三郎氏顕彰事業検討委員会

(委員長 財団理事 中山輝也氏)

佐野藤三郎氏を顕彰する事業を検討し財団理事会に提言するとともに事業実施のサポートをする。



### 佐野藤三郎氏顕彰事業検討委員会 名簿

区分	氏名	所属・職名
委員長	中山 輝也	(株)キタック 代表取締役会長
委員	五十嵐 祐司	新潟22の会 会長
委員	伊藤 忠雄	新潟大学 名誉教授
委員	望月 迪洋	「新潟研究」事務所・主宰
委員	原 崇	新潟日报社 編集局 論説編集委員 記者
委員	荒木 剛	亀田郷土地改良区 総務課長
委員	村山 初太郎	新潟県日中友好協会 事務局長
委員	鈴木 伸作	(公財)食の新潟国際賞財団 常務理事
オブザーバー	古泉 肇	(公財)食の新潟国際賞財団 ファウンダー・特別顧問
	杉本 克巳	亀田郷土地改良区 理事長
事務局	駒形 正明	(公財)食の新潟国際賞財団 事務局長

(2) 佐野藤三郎氏を広く伝える事業

佐野藤三郎氏の生誕100周年を記念して、佐野氏の偉業を広く伝え発信する。特に若者の周知と理解を深めるためにマンガを制作・販売し、併せて県内学校、図書館へも無料配布する。また出版記念講演会も開催する。

(※1923年 (T12年) 11月22日生～1994年 (H6年) 3月25日没 (71歳、※生誕100年 2023年 (令和5年) 11月)

①マンガ「佐野藤三郎」(仮称)の制作・販売と配布

制作期間：令和4年5月～令和5年4月

配布方法：県内学校・図書館・関係者・財団会員への無料配布

制作主体：(公財)食の新潟国際賞財団

②出版記念講演会の開催

執筆・制作者の講演会の開催



# 令和4年度活動計画(令和4年5月1日～令和5年4月30日)

## 9. 広報活動

### (1) ホームページの更新

- ①第7回国際賞受賞者の広報・情報掲載
- ②第1回～7回国際賞授賞者の情報掲載
- ③財団・国際賞の紹介
- ④財団事業の広報及び報告
- ⑤食の農に関する最新情報(財団ネットワーク関係者の寄稿)

### (2) 財団通信(Niigata Award News)

財団の広報誌として事業活動報告や経済情報などを掲載し、寄付企業・賛助会員・個人会員・財団役員・交流協力団体へ送付し、財団活動と国際賞の周知を高め、ネットワークの拡大を図る。

- ①国際賞表彰事業に関する広報や情報発信(ホームページと連動)
- ②財団の事業活動の広報と事業報告
- ③食と農に関する最新情報(財団ネットワーク関係者の寄稿)
- ④財団主催シンポジウム・セミナーなどの講演概要の掲載

### (3) 国際賞及び財団紹介パネルの作成(日本語・英語版)

### (4) 新潟市内国際関係行事に出展し財団・国際賞のPR活動

### (5) マスコミとの連携活動(シンポジウム・イベント・表彰事業の共催)

### (6) 食の新潟国際賞親善大使を通じたPR活動

### (7) SNSを活用した広報の制作



## 10. 資金基盤の確立

新規寄付金・賛助・個人会員の積極的な募集活動。

- ①新会員募集の活動方針や内容を検討し新会員の募集を積極的に行う
- ②役員等の新規会員の紹介による効果的な会員募集活動
- ③財団事業の開催時の会員募集チラシの配布と呼びかけ

## 11. 食と花の世界フォーラム組織委員会への参加と協力

食と花の世界フォーラム組織委員会へ参加し協力連携を強化し、共同事業に参画する。

- ①「フードメッセin にいがた2022」への協力
- ②「食と健康フォーラム」の企画・開催運営

## 12. 産官学ネットワークの構築と事業参加

国内外の国際関係機関・企業・大学・経済関係団体等との連携を図り、共同事業活動に積極的に参加する。

- ①FAO(国連食糧農業機関)、WFP(国連世界食糧計画)、国連大学、(公財)フォーリン・プレスセンター、JICA(国際協力機関)等、国際関係機関・団体との関係強化
- ②国内食品・農業関連分野の国際研究機関とのネットワークと情報収集
- ③県内大学・農業・食品研究機関との連携による事業の開催と連携強化
- ④6次化産業の振興と進行事業への開催と参加
- ⑤公益財団法人 古泉財団(理事長 古泉肇氏)との事業協力
- ⑥健康ビジネス協議会や新潟市農業活性化研究センターとの連携協力



# 中国における新潟産米プロモーション(新潟市北京事務所からの報告)

新潟市北京事務所長(新潟市観光・国際交流部次長)  
池田 比呂哉



2011年の大震災以来、新潟を含む10都県を対象に中国本土への食品輸入禁止の措置が取られていましたが、2018年11月、新潟のお米(中国指定施設で精米・燻蒸した米)のみが輸入解禁となりました。

それを受け新潟県と市は連携して、フェアや商談会、或いはインフルエンサーの活用等による様々な新潟産米プロモーションを北京や上海等中国本土で展開してきました。その後、新型コロナウイルスの影響による中断期間を経て、昨年はコロナが比較的沈静化していた中国本土において、新潟市による新潟産米プロモーションを展開することができましたのでご紹介いたします。

一つ目は3月、JA新潟市の米を中国に輸出している米卸大手「神明」との連携により、イトーヨーカ堂北京において、米の試食や抽選会等のイベントを含めたプロモーションを開催。これは新潟市北京事務所単独事業として初の試みでしたが、結果、かなりの売上を記録しました。中国産米に比べ数倍高い価格にもかかわらず、ほぼ贈答用ではなく自家消費目的であることがアンケート結果で判りました。

二つ目は9月下旬、米卸大手「木徳神糧」の中国本土に試験輸入された新潟産米を、「お世話になった中国人への贈答品としてはどうか」という北京新潟県人会の発案により県人会でまとめて購入。北京事務所に届いた200Kgのお米を有志のみなさんで仕分けをし、多くの会員の方々から中国の友人知人に贈っていただきました。「さすが、米どころ新潟の米だ」と大変好評だったようです。中秋節の時期を利用したとても良いプロモーションとなりました。

三つ目は10月末からの、上海アピタでのプロモーションです。イトーヨーカ堂北京とほぼ同様の事業展開により、200袋以上を売上げました。これは、3月の北京での事業実績をもって上海アピタに売り込みをかけたところ「ぜひうちでも!」ということで開催が実現したものであり、北京での試みが結果として上海での事業展開に繋がったかたちとなりました。

一連のプロモーションを通じて、中国富裕層の購買力にはまだまだ期待できること、新潟米のブランド力はまだまだ健在であることを実感することができました。中国産米との価格差は依然として大きく、食味もかなり向上しており、うかうかしてられない状況ですが、やはり14億人の市場は大きな魅力であり、この市場における新潟産米の知名度を更に高められるよう、関係各位と連携しながら今後も取り組んで参ります。



(池田所長さんは2017年4月から新潟市北京事務所長として北京に駐在し、中国での新潟市の物産や観光のPRや売込みなど新潟を発信するため前線で積極的な活動をされています。)

第2回新潟SDGsアワード（地域創生プラットフォームSDGs主催）  
「食の新潟国際賞財団特別賞」に新潟県立佐渡総合高等学校が受賞・記念講演

SDGs（持続可能な目標）を新潟県の課題解決と将来に向けた活性化に活用し、地域に根差した持続可能な活動体を目指して設立された「地域創生プラットフォームSDGsにいがた」（新潟日报社・新潟県・第四北越銀行・博報堂 事務局：新潟日报社）に食の新潟国際賞財団もSDGsを推進する事業として今年度も協力参加しました。

このプラットフォームはSDGsにすでに取り組んでいる、あるいは関心を持っている団体・企業・個人等が参加し、セミナーやシンポジウムなどの交流や情報交換を通じて、産官学連携や各々の活動の活性化を図り、SDGsの視点で企業価値を上げるというものです。

当財団も「食と命」をテーマに食を通じて持続可能な世界を築くために貢献した活動や研究に光をあて顕彰事業を行ってきました。

プラットフォーム主催の「第2回新潟SDGsアワード」が開催され、第1回から設けられた「食の新潟国際賞財団特別賞」を「新潟県立佐渡総合高等学校」が受賞しました。「新潟県立佐渡総合高等学校」はこの特別賞と大賞のダブル受賞となりました。

このアワードには新潟県内でSDGs関連の活動に積極的に取り組みを進めている30団体・企業から応募があり、選考結果11団体・企業が表彰されました。



## 記念講演 「世界の食料問題とSDGs」

【講師】 日比 絵理子 氏      国連食糧農業機関（FAO）  
駐日連絡事務所長



# 『SDGs2飢餓をゼロに』へ向けて私たちができること ～ザンビアの子どもたちへのネリカ米食料支援プロジェクト～ 新潟県立佐渡総合高等学校 農産・加工系列

令和2年度から、本校農産・加工系列で取り組んで来たこの取組みが、『新潟SDGsアワード』大賞および食の新潟国際賞財団賞をいただき、本当に嬉しいです。

授業の中でSDGsやストリートキッズについて学び、私たちに何ができるかを考え、私たちが栽培したものを収穫して送ろうということになりました。しかし、正直、最初は「そんなことできるのか」と否定的に、そして消極的に考えていました。

何を栽培し、寄贈するかを考えているときに、ザンビアの主食の「シマ」を製造しましたが、あまり私たちの口に合いませんでした。そのことから、「逆に日本人が日常的に食べているものをアフリカに送っても喜ばれないのではないか。だったら、アフリカで栽培されている農産物の栽培に挑戦してみよう」となりました。そして、アフリカの主食の多様化の観点から開発された「ネリカ米 (NEw RICE for Africa)」を栽培することになりましたが、無事に収穫に至るのか、不安でした。

しかし、無事に栽培が進み、収穫ができ、認定NPO法人「礎の石孤児院」に相談したところ、ザンビアの孤児院を運営している日本人女性に繋いでくださると決まったときは、「私たちが栽培したものが、外国の食料支援を必要としている子どもたちに届けられるかもしれない」と考え始めました。JICAの協力を受け、渡航するJICA関係職員に持参していただき、無事に「Cornerstone Of Hope」というエイズ孤児を集めた小学校兼孤児院で食していただけた動画を視聴したときは、夢のようで、とにかく嬉しかったです。

令和3年度も栽培を継続し、今年度は、ザンビアの孤児院でも栽培に挑戦してほしいと考え、発芽率や生育調査、収穫量の調査を行い、栽培マニュアルを作成しました。そして、収穫できたコメと栽培マニュアル、写真、私たちが書いた英語の手紙をザンビアへの渡航予定のJICA関係職員に郵送しました。そして、2月下旬に、43人の元ストリートキッズを集めた「NSANSA孤児院」で食してもらえました。

来年度は、そのNSANSA孤児院で、ネリカ米の種子を入手し、狭い面積ではあるようですが、栽培に挑戦していただけたとのことでした。私たちは、先生から、「コメを送って食べていただいて終わりで良いのか。世の中には、『魚を与えるのではなく、釣り方を教える』という言葉がある」という言葉を聞き、「ザンビアの孤児院でネリカ米を栽培して、自活できてこそ、最大の支援」ということに気づかされました。

来年度も本校で栽培の予定なので、オンライン会議などを使い、一緒に栽培をしていきたいと思います。



## 特別会員

亀田製菓(株)	(株)ブルボン	(学)新潟総合学園
一正蒲鉾(株)	サトウ食品(株)	新潟県農業協同組合中央会
(株)第四北越銀行	(株)栗山米菓	亀田郷土地改良区
(株)新潟日報社	(株)新宣	(株)エイケイ
亀田商工会議所	(株)新潟クボタ	NST新潟総合テレビ
にいがた22の会	(株)日本食糧新聞社	五十嵐建設工業(株)

## 正会員

新潟市農業協同組合	日本甜菜製糖(株)	(株)ディモルギア
新潟県信用組合	(株)鳥梅	UX新潟テレビ21
(株)第一印刷所	新潟工科大学産学交流会	イカリ消毒(株)
(株)本間組	(株)キタック	新潟工科大学
石本酒造(株)	北越工業(株)	(株)日本旅行新潟支店
(株)ミカサ	丸榮製粉(株)	(株)田中組
神山物産(株)	鍋林(株)ヘルスフーズ事業部	(医)愛仁会 亀田第一病院
ハセガワ化成工業(株)	TeNYテレビ新潟放送網	(株)ひらせいホームセンター
藤屋段ボール(株)	(株)栗田工務店	ワタキューセイモア(株) 新潟営業所
(株)タケショー	三和薬品(株)	(株)エヌエスアイ
(株)新潟博報堂	松田産業(株)	(株)トップライズ
BSN新潟放送	セツツカートン(株)新潟工場	(株)ウオシヨク
新潟陸運(株)	東邦産業(株)	(株)ヤマダ
(株)新潟食品運輸	麒麟山酒造(株)	(株)新潟国際貿易ターミナル
月島食品工業(株)	(株)加島屋	八海醸造(株)
(株)ニッポン関東支店	(株)日本フードリンク	

## 個人会員

古泉 肇	藤島 安之	和田 充彦	高畑 昭文	廣瀬 利雄	山口 勉	君塚 毅	宗像 寛明
高橋 常考	田村 敏郎	杉本 克己	近藤 鴻	大坪 守	大川 秀雄	大倉 正寿	吉岡 謙一
古口 日出男	坂田 武利	門脇 基二	佐藤 久栄	大谷 勝男	田中 敏明	青木 清	阿部 徳威
佐藤 勉	佐藤 清一	野上 文彰	板井 茂	浅井 善広	清水 良一	田中 作一	新保 房機
古泉 榮三	佐藤 純	倉嶋 則昭	塚本 太一	大越 斎	野口 正晴	酒井 定勝	齋藤 秀明
松本 裕志	當野 篤	高山 利夫	久保田 紳一	河瀬 三千夫	和澄 孝男	五十嵐 修	望月 健三郎
山田 雄治	鈴木 正二	竹石 松次	古泉 幸代	大森 ゆかり	高橋 慶三	阿部 昭一	渡邊 信也
宇野 勝雄	赤塚 義廣	坂井 俊一	鈴木 伸作	佐藤 銀治郎	加藤 寿一	石附 由美子	齋藤 博文
齋藤 幸広	田辺 俊文	小田 静二	渡邊 徹	中村 好彦	栗田 浩	栗田 朋子	阿部 文仁
高尾 茂典	五十嵐 豊	久代 勝英	古泉 幸一	加藤 純子	高倉 広利	清水 泰成	中野 節子
阿部 愛子	大島 照美子	宮口 澄子	青木 太華子	五十嵐 康子	五十嵐 早苗	佐藤 金治郎	佐藤 文男
高橋 征男	高橋 克郎	田村 泰生	山崎 尉生	中村 雪絵	村山 浩太郎	稲葉 晋	川崎 千春
秋山 正之	松川 忠史	濱野 剛	山根 憲介	池田 祥護	星野 幸三	糸満 盛人	伊豆 智
小林 哲也	岡田 茂久	遠山 幸男	小野 隆樹	大橋 祐貴	前田 穰	桐原 隆晃	長井 基樹
岸田 良満	中村 健一	小林 宏志	柳澤 敏郎	田中 一幸	遠藤 俊介	葉葦 正幸	星野 聡
高崎 三男	桑原 毅	大日方 聡	石田 道子	須貝 貴之	宮下 好文	高橋 裕作	小平 勝志
坂田 浩一	田中 雅史	藤間 佑輔	品田 卓也	渋谷 政道	村山 雄亮	北爪 文義	近藤 正
高橋 佑	荒井 弘美	重泉 篤史	本間 康弘	中野 克之	国松 豊	最上 正人	森本 昌章
佐藤 正尚	下條 幸二	廣川 正通	小谷 尚志	高橋 道映	田中 弼	佐藤 浩晃	村山 和恵
小林 達	佐藤 善昭	酒井 栄一郎	佐藤 聡	小林 守	阿部 欣也	杉谷 浩一	佐々木 一
金田 季之	宮島 泰	高崎 俊哉	藤田 正明	池田 一史	石崎 宏幸	小嶋 孝代	渡邊 雄一郎
駒形 正明	藤井 大三郎	阿部 貴美	大沼 成勝	丸山 智史	古俣 周策	小野 隆樹	田邊 威
高橋 大介	伊藤 雅明	秋堂 春美	田中 義夫	長谷川 克弥			